

# アルファルファの新しい奨励品種候補「ネオタチワカバ」

福島県農業センター 飼料環境科

部門名 畜産－その他－品種、畜産粗飼料

担当者 吉田安宏・松澤保・生沼英之・片倉真沙美・武藤健司・新妻恭子・森口克彦

## I 新技術の解説

### 1 要旨

アルファルファはタンパク質、ミネラルの含量が高く、トウモロコシサイレージと併用給与した場合、お互いの栄養成分の不足分を補い合うことができる有用な牧草である。

しかし、本県で唯一のアルファルファの奨励品種であった「タチワカバ」が、種子の供給がなくなったことから平成18年度に廃止となり、現在、本県のアルファルファの奨励品種はない。

そこで、新しく育成、または導入された品種について、本県の気象条件等に適したアルファルファ品種の選定を行い、普及に供することで本県の飼料自給率の向上を図る。

#### (1)生育特性(表1)

越冬性は、供試品種では「ネオタチワカバ」が最も高く、標準品種の「タチワカバ」と同等であった。また、病害虫の発生は、全品種とも時期的にアルファルファモザイク病の発生が見られたが、発生程度は1(1:無又は極微～9:甚)であり生育に大きな影響はなかった。

#### (2)収量性(図1、表2、図2、図3)

乾物収量、CP収量、TDN収量は、供試品種では「ネオタチワカバ」が最も多く、標準品種を上回るか、ほぼ同等であった。

## 2 期待される効果

(1) 品質・収量ともに優れた飼料作物であることから、濃厚飼料の一部代替などが可能であり、飼料自給率の向上と飼料費の削減が図られる。

## 3 適用範囲

県内の牧草地

## 4 普及上の留意点

- (1) 排水のよい畑、雑草の少ない畑を選び、土壤改良(pH6.5～7.0を目標)やリン酸主体の基肥を行うこと。
- (2) 根粒菌コーティング種子または根粒菌接種種子を利用すること。
- (3) 永続性を維持するためには、雑草対策、刈取り適期の順守、刈取り毎の追肥など適正な管理を行うこと。

## II 具体的データ等

表1 生育特性(3カ年平均)

品種名	発芽 良否	定着時 草勢	越冬 性	刈取月日				病害 程度	倒伏 程度
				1番草	2番草	3番草	4番草		
タチワカバ(標準)	7	7	7.0	5/23	6/22	7/19	8/23	1.0	2.3
ケレス	7	7	6.3	5/24	6/22	7/19	8/23	1.0	2.3
ヒサワカバ	7	7	6.0	5/23	6/22	7/19	8/23	1.0	2.0
ネオタチワカバ	7	7	7.0	5/23	6/22	7/19	8/23	1.0	2.4
マキワカバ	7	7	6.3	5/24	6/22	7/19	8/23	1.0	2.3

\* 発芽良否、定着時草勢は播種後の初年次のみ。他は3カ年平均。

発芽良否、定着時草勢:極不良1、極良9として評価。

越冬性:早春の冬損株・葉枯程度等を、極不良1、極良9として評価。

病害程度:無または極微1、甚9として評価(病害:アルファルファモザイク病)。

倒伏程度:無または微1、極多9として評価。

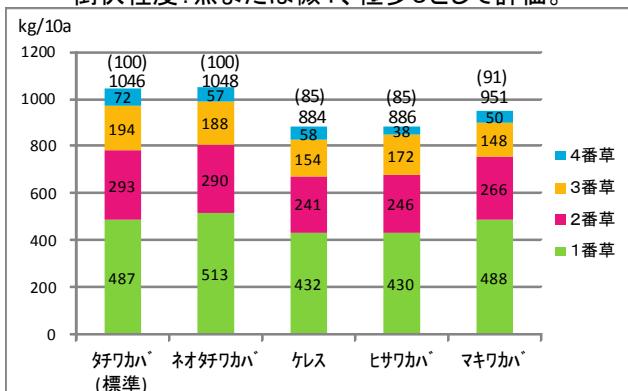


表2 粗蛋白質含量と推定TDN含量

品種名	1番草		2番草		3番草		4番草	
	CP	推定TDN	CP	推定TDN	CP	推定TDN	CP	推定TDN
タチワカバ(標準)	12.6	56.0	15.1	56.9	14.6	57.1	16.3	57.2
ケレス	14.1	58.9	16.7	57.2	16.2	57.0	18.7	57.6
ヒサワカバ	13.2	58.6	16.4	57.5	16.7	57.0	19.0	57.7
ネオタチワカバ	14.2	55.4	15.3	55.8	14.2	55.6	18.4	56.6
マキワカバ	12.7	56.6	16.6	56.8	16.7	56.4	18.0	57.5

図1 乾物収量(3カ年平均)

( )は、タチワカバを100とした場合の比率

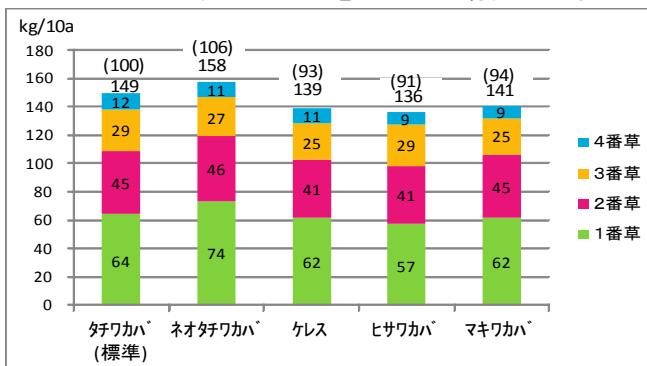


図2 CP収量(3カ年平均)

( )は、タチワカバを100とした場合の比率

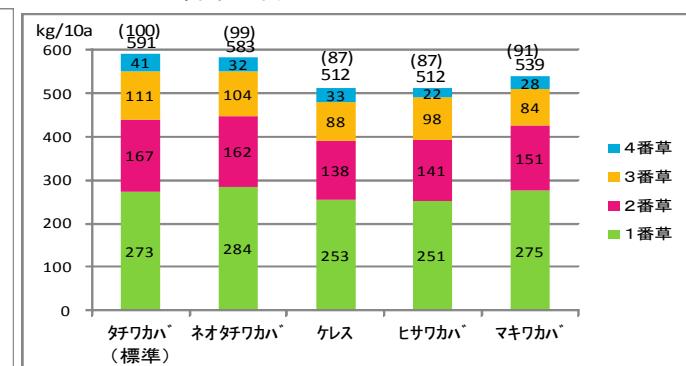


図3 TDN収量(3カ年平均)

( )は、タチワカバを100とした場合の比率

## III その他

### 1 執筆者

吉田安宏

### 2 成果を得た課題名

(1) 研究期間 平成20年度から23年度

(2) 研究課題名 牧草・飼料作物の優良草種・品種の選定 牧草類奨励品種選定試験 アルファルファ

### 3 主な参考文献・資料

(1) 平成21年度～22年度農業総合センター試験成績概要